

<講座報告>

**B** 「支援教育の視点を生かした授業づくり・集団づくりにむけて」

～『富小スタンダード』等、明日から役立つ具体的支援を実践から学ぶ～

富田林市立富田林小学校 支援教育コーディネーター 通級指導教室担当

松本 竜彦先生



今回の研修について「子どもを幸せにするための知識の共有」を目標に、ご講演いただきました。

① 発達障がいについて

- ・特性は適切な関わり方、よい環境の中では、個性として力を発揮する。一方、理解の無いかわり方、環境の中では、特性は障がいへと変化してしまう可能性がある。

→学校の環境チェック

「子どものせいではなく、私たちのせいかもしれない」という意識を持つ。

② 支援体制の構築

- ・富小スタンダード・チェックリストの作成

→子どもたちのために何をすればいいかが明確になり、意識が高まった。

- ・全クラス一斉で取り組むビジョントレーニング

③ 通級指導教室の取り組み

- ・限られた活動時間の中でより内容の濃い授業をするために。
- ・身体トレーニング（目と体の協応、同時処理、認知作業トレーニング、視覚認知）  
個別トレーニング（記憶力、集中力、伝える力、作文練習、イメージ力）

→授業者がそのトレーニングをする目的を理解できているか

④ 指導例

- ・応用行動分析

→行動には意味がある。問題行動だけに注目するのではなく、先行条件と問題行動によって得られる結果は何かを確認する。

- ・特性が個性と言えるように、早期から適切な関わりを目指す。

加えて、普段の授業で使っている教材もたくさん持ってきていただき、活用方法など丁寧に教えていただきました。